

平成31年度 第2回白井市市民活動推進委員会会議録（概要）

1. 開催日時 平成31年4月19日（金）午前9時～午後4時45分
2. 開催場所 白井市役所 本庁舎2階 災害対策室2・3
3. 出席者 関口宏聡委員長、清水洋行副委員長、福留千亜紀委員、
大田茂子委員、五十君みつる委員、（名簿順）
4. 欠席者 浅海仁美委員
5. 事務局 岡田課長、松岡係長、長谷川主事
6. 傍聴者 4名
7. 議 事
 - （1）補助金審査の流れ〔非公開〕（資料1、2、3）
 - （2）公開プレゼンテーション〔公開〕（資料1、2）
 - （3）補助金審査〔非公開〕

8. 会議概要

（1）補助金審査の流れ〔非公開〕

（理由）白井市情報公開条例第9条第1項第6号に基づき、補助金審査の内容のため。

（2）公開プレゼンテーション〔公開〕

[事務局] ただいまより、平成31年度白井市市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーションを開始いたします。

開催に先立ちまして、市民活動支援課課長より、ご挨拶申し上げます。

[事務局] 皆様おはようございます。市民活動支援課長の〇〇でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

きょうは最初から傍聴の方もお越しになっておられますけれども、今回の私どもの市民団体活動支援補助金ですけれども、この目的は市民団体の自立の促進ということが一つの目的でございます。それから、もう一つは、公益活動を活性化させて地域課題の解決を図っていこうと、そういったようなところが大きな目的になっております。

このたび、この補助金に関しては、平成30年度、昨年度は3団体だけの応募でしたが、今年度は13団体の応募が出ております。ぜひとも傍聴のきょう来ておられる団体さんにつきましては、次の年度のぜひ補助金の申請というようなところをお考えいただければと思っております。

また、きょうは後ろのほうに、執行部側で福祉部、それから健康子ども部から職員が来ております。ぜひとも執行部のほうも市民活動団体さんとの協働ということの一つでも考えていって、ぜひとも市民活動、または市民自治のまちづくり、こういったことを進めて

いければと思っております。

最後に、委員さんにおかれましては、本日長丁場になりますが、慎重なる審査をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

[事務局] それでは、審査に移ります。それぞれの団体より申請された事業について、学識経験を有する人、公共的団体などの代表者、公募市民で構成される市民活動推進委員会補助金審査担当委員が書類審査とあわせ、これから行います団体による発表と質疑を含めて総合的な観点から補助金の採択について審査を行います。

当初13団体の申請があったのですが、1団体、まんぷく食堂さんに関しては、団体さんのほうから応募取り下げの依頼がありましたので、本日は全12団体の審査となります。

本日は、市民団体による公益活動を広く市民の皆様にご覧いただきたくとしまして、団体による発表と質疑を公開形式にてプレゼンテーションを実施することといたしました。

それでは、これから12団体、順に公開プレゼンテーションを実施するのですが、傍聴の皆様にご覧いただけます。本会場への入室、退室については、3団体ごとに15分ずつ休憩を設けておりますので、席を立つ際は、その時にご覧いただけます。なお、緊急でプレゼンテーション中に退席される場合は、お静かにお願いしたいことと、再入場に関しては、休憩時間の際にご覧いただけます。

加えて、本日の写真撮影なのですが、プレゼンテーション中と質疑以外での写真撮影は可能ですので、そのプレゼンテーション中と質疑の間に関しては、撮影はご遠慮いただくようよろしくお願いいたします。以上でございます。

<発表団体名 しろいワクワクひろば>

[発表者] しろいワクワクひろば代表〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

[発表者] 同じく、事務局長の〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、多世代交流型子ども農園&子ども食堂事業について、説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

初めに、私たちの活動地域についてご説明させていただきます。子ども農園については、白井第一小学校区内にある白井保育園に近いところの畑で行っております。子ども食堂については、畑から徒歩5分ほどの場所にある元白井町役場の建物で、現在は「ひだまり館」という名称の市の施設をお借りして行っております。

活動内容は、月1回土曜日または日曜日の午前11時ごろから正午ごろまで、子ども農園でお芋や野菜の苗植えや収穫作業を行っております。その後「ひだまり館」へ移動して、しろいワクワクひろば会員手づくりの食事を参加者全員で楽しくおしゃべりをしながらいた

だいています。

私たちの活動には、市役所健康課担当の保健師さんも協力してくださっておりまして、農作業の合間や食後一息ついた後などに、なし坊体操を教えてもらって、みんなで楽しく体を動かしています。こちらは平成30年度から活動を開始したところなのですが、昨年11月にはサツマイモ掘り、12月には、ばらっぱまんじゅうづくり、ことし3月にはジャガイモ植えを行い、毎回子ども食堂も行いました。

昨年度の活動状況について撮影したものがございますので、ごらんください。こちらは昨年11月のサツマイモ掘りの場面です。こちらは、ことし3月のジャガイモ植え作業です。ジャガイモ掘りの日は大変お天気がよかったので、畑の隣の空き地で会員手づくりのお弁当をみんなでいただきました。こちらは、保健師さんと一緒に子供たちが、なし坊体操を元気に行っているところです。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化や核家族化などによる地域のさまざまな課題があると感じたからです。白井第一小学校区は、在来地区ということで3世代の同居世帯も少なくありませんが、一方で外国籍の方も含めた若い子育て世帯やひとり親家庭の方たちが、近くに親族や知人がいなくて地域から孤立しがちになり、育児の負担から虐待に至ってしまうような場合があります。また、ひとり暮らしの高齢者や高齢者ご夫婦のみの世帯もふえてきていて、高齢者の方は年ごとに心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなり、孤独死や老老介護などの問題が起こってくる可能性があります。

私たちは、子ども農園や子ども食堂を通じて、地域で生活するさまざまな年代の人たちがお互いに知り合い、交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えています。私たちの事業は、そのためのかわりのきっかけづくりであり、定期的で継続的な活動を通じた交流により若い子育て世代を応援し、高齢者の閉じこもり予防を図り、子供たちや若者の健やかな育ちを見守っていきたいというふうに考えております。地域のさまざまな人とのかわりを通じて、子供たちには意欲や自信を、若いパパ、ママには1人で頑張り過ぎないように子育ての孤立防止を、高齢者の方には子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして活動している会員のママたちは若さと健康を保っていけるよう、事業を継続して実施していきたいと考えております。

こちらは、今年度の4月から12月までの事業予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を実施していくこととしています。会員の構成と協力体制についてですが、現在会員は8名で、中高大学生や社会人の子供を持つママさんと、その友人で組織しています。協力体制としましては、畑を地域の方から無料でお借りしたり、食材の一部を社会福祉協議会さんからご寄附をいただいたりしています。ほかにも農業指導のボランティアさんや、地区社協の推進員さんなどのご協力をいただいております。

私たちの事業は、白井市が目指している将来像、「ときめきと みどりあふれる快活都市へ」を実現するためのプロジェクトにも該当するのではないかと考えております。このよ

うな私たちの事業を継続して実施していくに当たり、お芋や野菜の苗植えや肥料代、食材費や会員の細菌検査費用等に市民団体活動支援補助金を活用していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

[委員長] ありがとうございます。本当に時間ぴったりですばらしいプレゼンテーションだったと思います。ありがとうございます。

そうしましたら、委員のほうからご質問をさせていただきますので、お答えいただければと思います。

皆さん、いかがでしょうか。

[委員] ○○と申します。よろしくお願ひいたします。

資料を拝見して、ずっとお話伺って、この活動が農と食と子育てをきっかけにして、多世代交流、それから多文化交流、居場所づくりを目指しているということで、とても意義深い活動だというふうに思います。

質問は、活動団体の背景のところで質問させていただきたいのですけれども、申請書だと20ページのところなのですけれども、そこに自主財源のところで、白井子供会積立金というのが入っていて、何かそういうところが背景となっていて新しいことに取り組みたい、それに今回の補助金を活用して、活動の幅を広げたいということだと思っておりますけれども、その辺の経緯を差し支えない範囲でお話、教えていただければと思います。

[委員長] お願いします。

[発表者] 私は現在、高校生と大学生、社会人の子供がいるのですけれども、その子供たちや、10年、15年ぐらい前、子供会を会長のお子さん方と一緒に行っていったころなのですが、私たちの子供たちが小学校を卒業するぐらいになりますと、子供会も後継してくださる方がいなくなりまして、休止状態というような状況になりまして、そのときに積み立てていたお金をずっと保留していたというところで、ただ現在、今ご説明させていただいたような課題が地域にあるのかなというふうに話し合って、こういった活動をしていこうということで話がまとまって、昨年度から開始したような形になっております。

[委員] そのときからのつながりを生かして新しいことに取り組まれているということですね。わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] ○○です。申請書を読ませていただくと、いろいろな団体さんと連携してやられているなと思っていて、とてもいいなと思っているのですが、具体的にいろいろな団体さんとどのように協力しながら取り組んでいるのか、取り組んでいこうと思っているのか、少しお話ししていただけたらと思います。

[委員長] お願いします。

[発表者] 地区社会福祉協議会さんについては、収穫作業の際にトラックを貸し出してくださって、運搬のお手伝いもしてくださったり、それから当日の苗植え作業ですとか収穫作業のお手伝いもしてくださっております。

あと、高齢者の施設の方につきましては、当日の参加者の方、車でいらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、高齢者施設の職員駐車場を当日はお借りさせていただいて実施をしているところです。芋苗植えや収穫作業、畑の作業にもご参加を声かけはしているところなのですが、まだその辺については、これからまたお声かけさせていただいて、一緒に芋植え作業とか収穫作業なども一緒にしたり、食事と一緒にしたりしていければなというふうに考えております。

[委員長] よろしいですか、そんな感じで。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

どうぞ。

[委員] 今の質問と補足していただければと思うのですがけれども、活動計画が月1回あって、それぞれいろいろなこちらの自治会さんとか、いろいろなところと連携するのは、本当に素晴らしいなと思っています。毎回、地域のいろいろな社会福祉協議会さんとか自治会さんとかと一緒にやるという形なのですか。それとも回によってバリエーションがあるという感じなのですか。

[発表者] 回によって、例えばお餅つきなどについては、地域の自治会さんとのコラボです。事業計画のほうに書かせていただいている太鼓クラブさんとの交流などについては、ボランティア団体さんとの交流ということで、その回ごとに、月ごとに交流の形は違うという形で行って、考えております。

[委員] すばらしいネットワークですね。

[委員長] ありがとうございます。ほか、いかがでしょう。

私からもいいですか。ちょっと気が早い話かもしれないのですが、私も実は、似たような活動を地元の佐倉市でやっていたことがありまして、何か将来展望といいますか、行く行くはどんな活動をされたいかという構想とかをお話いただけますか。

[発表者] 現在は月1回の活動ということなのですが、実現するかどうかわからないのですが、いつでも来られるような居場所、いつでも誰でも来ていただいて、ほっとできるような居場所ということのを遠い将来なのなのですが、5年後10年後とかを目標にしていきたいなというふうには考えております。

[委員長] すばらしいですね。この制度、実は促進型は1回だけなのですが、次は発展型というふうのもありますので、そちらのほうも次はチャレンジしていただければなと思うのですが。最後どうでしょうか。よろしいですか。

〇〇さん、先に終わらせてもいいのでしょうか、少し。

[事務局] 今、6分45秒です。

[委員長] ということで、これで質疑のほうを終わらせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

<発表団体名 白井健康元気村>

[発表者] 白井健康元気村の村長をやらされております〇〇と申します。白井駅の横のほうのマンションに住んでおります。ただいま79歳の年に入りました。座ってやらせていただきます。

人生100年の時代が到来と、この時代をいかに生きるか、白井健康元気村のコンセプトは人生二元論、これにあります。子育てや職に縛られることが少なくなったリタイア後の約30年、これを二元目と考えて、選択肢の多くなった二元目をより活動的に有意義に、そしてスマートに生きようとする活動団体であります。単に介護不要の健康寿命を延ばすだけでなく、積極的に社会とのかかわりを求め、元気はつらつとした日常を送る、つまり元気寿命を延ばして、でき得ればピンピンコロリを求めてスマートにあの世に行こうとする活動であります。後期高齢を光り輝く光輝、光輝を好ましい年齢を好齢と、そして光輝好齢ですね、光り輝く光輝と好ましい年齢の好齢にしようとする団体でもあります。

元気寿命に生きるには、WHOの健康定義である「からだ健康」、「こころ健康」、「家庭健康」、「社会健康」の四つの健康の維持が基礎となります。からだ健康の維持には、健康管理能力の啓発が肝心で、健康教室を企画します。こころ健康の維持には、生きがいと共生心、共に生きる心の寛容が肝心で、相互理解と積極性を増進するためにレクリエーションイベントや農業作業等を企画します。家庭健康の維持には、ついの生活設計立案能力の啓発が肝心で、終活教育を企画します。最後に、白井健康元気村の理念を広く発信し、多数の市民に企画行事への参加を募り、白井市を中心とした社会健康の維持増進を図ります。

そして、その基礎となる健康教室、終活教室の充実を図るためには、適切な講師の依頼が肝要で、多数の市民の参加を得るには、適切な会場の設定が必要であります。例えば100人以上入れる、かおりホール等のことをございます。そういう講師の謝金や会場使用料の支援をお願いするものであります。この援助は、白井市の医療行政にとっても、必ずや好結果をもたらすものとなって戻ってくるものと信じております。よろしくお願ひします。

30年度の実績と31年度の計画、これ資料として配っておりますが、健康教室。今何分ですか。

[事務局] 今4分です。

[発表者] これの資料を見ていただければ、大体わかると思います。来年度は、それらの四つの健康教室と二つの終活教室をやります。大体150名ぐらいの聴衆を予定しております。

じゃあ、〇〇さんお願ひします。

[発表者] それでは30年度の概要を見ていただく形で、これは健康元気村がブログを発信

しておりますので、その画面の一部です。

これがロコモの講習会の状況です。実際に、参加者実践をしました。それから、今のこれは飛ばしましたが、これがP P K、これはかなり長時間になりましたが、これはレジュメも配りまして、結構元気にやっていたいております。

[発表者] あとはブログを見ていただければ、この辺おわかりいただけたと思います。よろしくをお願いします。

[委員長] どうもありがとうございました。私どもには資料もいただいておりますので、そちらのできなかった分は、こちらで拝読させていただきます。

それでは、また委員のほうからご質問させていただきますので、お答えをよろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。

[委員] パソコン教室は、パソコンを常備された、そういう施設をご利用になったりしているわけですか。そのパソコン自体もご用意されるのですか。

[発表者] ちょっと細かく聞き取れなかったので、申しわけないのですが。

[委員] 終活のパソコン教室のパソコン自体をご用意されるのか、パソコンのある場所をとっておられるのか、どういうふうにされているのかなと思ひまして。

[発表者] パソコンの機器類は、元気村としては今持っておりません。ジョイントできるのが、SSVAがパソコン教室をやっております、これ長楽寺にパソコン教室があります。

ただ、今の状況では、パソコン自体をそろえることよりは、ほとんど持ってみえている方が多くなってしまして、実際には一、二台教師のパソコンがあればほとんど足りるのではないか、今のパソコン教室はもっと広げるのではなくて、とりあえず健康元気村の村民だけを対象にもうちょっと細かくやりながら、一般に広げることを考えてみようとは思っていますが、現状では機器類は、私が持っている2台ぐらいです。それを利用しようと考えています。以上です。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

[委員] 委員の〇〇と申します。これから、どんどん広がっていく高齢化社会に向けてずっと元気でいようということですが。

[発表者] 声、もうちょっと大きくして。

[委員] 済みません。これからどんどん広がっていく高齢化社会に向けて、ずっと元気でいようということで、79歳の村長さんが旗振り役となって、ピンピンコロリを目指して活動していらっしゃるの、とてもすばらしいことだと思います。

それで、ちょっと気になったのですけれども、いただいた資料の5ページに事業スケジ

ユールの中で健康教室や終活（相続）など、老後の人生設計といった講演会を予定されているのですけれども、普段生活しております、私なんかは、現在、市の高齢者福祉課で行っている健康教室ですとか、時々回覧板で回ってくる地区社協さんなどが主催されている健康関係知識の講演会などあるのですけれども、そういったものとちょっと似ているとか、重なる部分が出てしまうかなと思うのですが、そういったところと違う白井健康元気村さんの独自の部分というのは、どういうところになりますでしょうか。

[発表者] やっているのは、主に千葉白井病院の先生にお願いしております。例えば、ピンピンコロリを目指すなんていうのは、その先生が自分でずっと企画して、例えば日常のものの摂取の仕方とか、それから運動の仕方とか、そういうのを総合的に大体1時間半ぐらい、一番長いときは3時間やってくれました。先生は十分に準備して、それでやっていただいていると、それから薬と薬剤師との付き合い方なんていうのは、東邦医大の名誉教授が、そういう本当に薬をどう使うか、だから私は市のやっていることよりも、もっと充実したものを来て聞いていただければわかります。熱心に皆さんメモをとって聞いて、しかも3時間休みなしでやったこともあります。

[委員] じっくり深い内容だということですね。わかりました。

[発表者] それは来てみたらわかります。ちょっと内容が違います。

[発表者] 基本的には、だぶっていいと私考えています。なぜかという、市民全体の健康意識が高まるのが一番大切なのです。それをいろいろな形で知識として普及するのは、役所の関係の健康課はしょっちゅうやってもらっていると。健康課ともリンクしながら、我々はお医者さんとの付き合い、これも考えているということで必要性は十分だと思っております。

[発表者] それをやってくれた腎臓専門医の先生とか、それからリハビリの専門の先生なんていうのは、事前にそういうことがあったら全部相談に乗ってくれます。私なんかも常に相談に乗られて、年寄りですので、相談に乗って診察していただいても千幾らぐらい、大体2カ月に1回ぐらいは予防のために千葉白井病院に行って、ああいう総合病院が自分の家庭医というような感じで付き合い始めております。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] 講演会を開催したいということで、今回申し込みなのですが、今お聞きすると、やっぱりお医者さんであったりとか薬剤師さんであったりとかプロの方なので、講師料が結構かかるんじゃないかなと思って拝見したのですが、予算を見ると結構低い金額なのです、1万円ぐらいの設定で大丈夫なのではないでしょうか。

[発表者] これを言わせてもらいますと、千葉白井病院の院長は私が先輩なものですから、〇〇先輩、これだけ資料をやってやったら、無料でですよ1時間必ずうちの、それを常に1万円でやってくださると、慈恵医大の大学教授も「1万円をお願いします」というこ

とで、それで1万円と、それから東京から来るときに旅費出さないわけにもいかない。それで6回やると6万、それから旅費が9万ぐらいと、それから、かおりホールは高いのです。大体あそこを借りて何やかやすると1万円なのです。だから全ては、かおりホールでは今はやり切れません。2回だけ、人気のある先生で100人以上いる2回だけです。あとは、その競争激しいのですけれども、一生懸命あそこを確保して、あそこでも70から100人ぐらいはできますので。

[委員長] 時間となりましたので、お疲れさまでした。どうもありがとうございました。

[発表者] 村民税4,000円取っていたのをこれをいただけるから、皆さんから2,000円でいいよと、今25人おられますから、半分に下げて約束してきておりますので、それがまた元のとおり4,000円にすると、私は相当非難されますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

<発表団体名 健康サロン>

[発表者] よろしくお願いします。健康サロンを始めまして、7年目になります。本当に今まであつという間な感じで、地域の人たちの協力で続けてこられたかななんて思っています。

なぜ始めたかという、私が民生委員で心配事相談に来ていましたね。そうすると七次台みたいのところだと、住宅地だと隣の人とのつながりもないし、全体も自治会はあってもなかなか親しい人のつながりというのは、できないのです。だから心配事相談で、ほかの地域の人たちというか、民生委員なんかの人の話を聞いて、やっているところがあつたのです。サロンがなかなか結果的にはいい感じで続けているのを知りまして、私も七次台で、ぜひサロンを月に1回やるようにしたいなと思って始めました。

社協のほうの協力で、お金も最初2,000円が3年間かな、あと現在1,000円でもらってやっています。毎月第2金曜日で1年間決めて、自治会のほうもそこを無償で貸してくれています。食事を簡単なものですが、お金のある範囲内でできるものをつくって、無償でみんなでワイワイ言いながら食べて楽しく過ごしていますけれども、ただ食べるだけではせっかく集まっているのもったいないので、市役所の協力というか、健康課の〇〇さんが協力してくれているのですが、あちこちの部署、課に協力してくれて、毎月来ていただいています。

その流れをざっと、時間がないので簡単に紹介したいと思います。ことしはもうやったのですが、健康課の〇〇さんが来てくれて、参加者全員の血圧を調べてくれたりして、今年度の市役所の健康診断の予定表かな、それを紹介してくれて大変助かりました。

5月は、資料は配りましたよね。

[委員長] あります、ここに。

[発表者] それの5月、〇〇さんが今度転勤して違う方になったということですが、その方に来てもらって、ちょっと内容がわからないのですが、〇〇さんはすごく今までよくやってくれて、脳トレの。

[事務局] あと1分です。

[発表者] 今、実際にサロンの流れとして、ラジオ体操1、2、それから2番は〇〇さんが教えてくれた脳トレのしりとりゲームをやっています。3番目にサロンの人が中心になって歌って踊ってをやって、その後、市役所から来ていただいた方にいろいろ話を聞いています。6月は環境課、7月は、予定は決まっていますが、〇〇さんだったかな。

[委員長] ありがとうございます。計画書とか書類はこちらにもいただいておりますので、補足する部分は、随時質疑の中でも補足していただければと思います。

そうしましたら、委員のほうから質問させていただきますので、ご回答お願いします。いかがでしょうか。

[委員] お話ありがとうございます。健康サロンとか居場所は、いろいろなところにあるというのはすごく重要だと思いますので、素晴らしい活動だと思います。

健康サロンだと、社協さんからもお金が出るのかなとも思うのですが、社協さんからお金は出ないのですか。

[発表者] さっき言ったように、最初2,000円出たのですが、それがもう終わって、次に今1,000円で、1,000円もう終わりになるのです。

[委員] 終わっちゃうということですか。

[発表者] そうなのです。それで何か売ってということができないので、こっちに出したのですけれども。

[委員] そういうことなのですね。

[発表者] 何か自分の畑があったら、畑の作物でも売って資金稼ぎができるのですが、そういうのも何もないから。

[委員] わかりました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 無償でお食事とかも出されているのですか。

[発表者] そうです、ずっと。

[委員] 会員さんがつくられているのですか。

[発表者] そう。

[委員] つくられている会員さんの例えば検便代とかは、この辺に載ってきてないのですが。

[発表者] 保健所に電話したら、即食べる分だったら問題ないでしょうと。置いておくと、やっぱりだめだということ。

[委員] そういうことで載ってないのですね。わかりました。例えば、無償を少しいただくとか、50円とか100円とかいただくという有料化は考えていらっしゃらない。

[発表者] 考えていません。最初からそうなので。お金は扱いたくないのです。ただ、寄附会員が来てくれていて、3回ほど500円のワンコインの食事会というのはやったのですけれども、そのときはいただいていますけれども、500円、それは参加してもらった人から集めて。

[委員長] ありがとうございます。よろしいですか。ほかはいかがでしょう。

[委員] このサロンに参加できる対象の区域というのが、あるのかなのか教えてください。

[発表者] 小学校区域全部です。去年の11月に伊澤市長に来てもらったのですけれども、そのときは市の広報にも載せたりして広げているので、桜台あたりの人が来ていました。だから来られる方は、どなたでもという感じです。

[委員] いいと思います。ありがとうございました。

[委員長] ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

[委員] 会の運営は、〇〇さんが中心になってされていて、さっきお金の管理が大変だということだったのですけれども、何かそういうことをやってくれる方とかは、ほかにまたいらっしゃるのですか。

[発表者] 今回もらえれば、会計さんを頼んでいます。会計さんというか、きょうは仕事があつて来られなかったのですけれども、そういうのをやってもらわないと、こっちも大変なので。

[委員] やってもらったほうがいいです。そうすると、さっきのお昼ご飯の話で、ちょっとしたお金をもらって会計さんができれば、取れるかなという感じですかね。それともお金を取ると、人が来られなくなっちゃうという感じですか。

[発表者] やっぱり無償だから来るという人も多いですよ。それで男性の方で奥さんが亡くなった方なんかは、お昼つくるのは大変だといって来ている方もいるのですけれども、お金を払うのだったら、わざわざ来ないかなという感じもします。

[委員] お話伺うと、楽しそうなところだから、それを目的で来るのかななんて思ったりもするので。

[発表者] なるべくこっちも頭ひねって、いろいろな部署から、市役所が中心ですけれども、いっぱい来てもらっています。

[委員] 材料費ぐらいもらっても、少し検討していただいたらいいのかなと思いました。

[委員長] ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

私からもよろしいですか。当初の申請書だと、地域猫の活動も記載していただいていたようなのですけれども、直接は関係ないのですが、皆さんとしては今プレゼンしていただいた健康サロンのお話と、あと地域猫班というのが、こちらのいただいたチラシにも書い

てあるのですが、そこら辺はどういう形で分担しているのかとか。

[発表者] 分担はないです。ただ、猫の世話をしている方が6人いるのですけれども、毎回はその人たちも用があつて来られないのです。ただ、私もまた環境課にお世話してもらつて、千葉県の無償のやつで避妊手術と去勢手術を頼もうと思っています。

[委員長] 主な今の活動はサロンの運営と、この地域猫の活動という感じなのでしょうか。

[発表者] そうです。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方も含めて、いかがでしょうか。〇〇さん、もう1回行きます、大丈夫ですか。

これで特にないようなので、質疑のほうも終わらせていただきたいと思います。本当に朝早いところから、どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございました。

<発表団体名 ティアラ>

[発表者] 皆さん、こんにちは。このたび活動促進型事業として申請いたしました、育て合うまちづくり応援隊ティアラと申します。私たちはバンド活動をしております。リーダーでドラムの〇〇です。

[発表者] ノエル〇〇です。

[発表者] キーボードの〇〇と申します。

[発表者] このほかにボーカルとギターのメンバーがおります。よろしく願いいたします。

早速ですが、私たちがやりたいことは、育て合うまちづくりです。特に育てるをキーワードに掲げ活動していきたいと考えています。

[発表者] ですので、自分たちだけの音楽活動にとどまらず、私たちと出会った人たちをコーディネートし、さまざまな形で地域に還元できるような循環型のイベントを企画、運営していく予定です。

じゃあ、ティアラが活躍したら、白井市にどんな幸せが訪れるの。

[発表者] よくぞ聞いてくれました。ポイントは三つです。

[発表者] 1、参加者に居場所ができる。サロン型のイベントもするので、お知り合いができるチャンスです。

[発表者] 2、白井駅前を中心にまちが活性化します。居場所づくりにとどまらず、白井駅、西白井駅での住民に配慮した音楽活動イベントを通じて、白井の活性化へと導きます。イルミネーションもさらに盛り上げます。

[発表者] 3、まちづくりに参加する人がふえます。私たちは発信するだけのバンドではありません。私たちはこれまで培ったネットワークも生かして、コーディネートもします。

営利団体とも健全につながります。まちづくりのために出会った人、団体をつないでいきます。

[発表者] 一定の世代に区切ることなく、あらゆる世代が集えるためのツールとして、私たちが選んだのが音楽でした。

[発表者] そして今なら何と。

[発表者] この三つのポイントに加えて、私たちティアラのファン、ティアラーがついてきます。まちづくり応援隊がふえること間違いなしです。

[発表者] 皆さん、キラキラしていますが、ティアラはこうやって白井を幸せにしていきたいと思っています。

[発表者] 実は、私たちバンドは全員、白井駅前センターのスタッフです。駅前センターでは、バンド活動をしているパパたちが子供たちに楽器を教え、教わった子供たちが、まちづくりのためにチャリティーライブを行っています。

このように白井駅前のイルミネーションや子ども食堂、学習支援団体に寄附してきました。私たちも同じ体験をするためにバンドを組みました。地域課題解決に向け、子供から大人まで幅広い層が互いに支え合い、切磋琢磨しつつも温かい雰囲気の中で地域に還元する活動をしています。

[発表者] これまでは公民館の活動として行っていましたが、これからは自由度の高い活動をしたいと思っています。さまざまな分野の方々とつながるためです。

[発表者] 子供からシニアまでが交流し、愛情を感じながら互いに支え合い、ひとりぼっちにさせない育て合うまちづくりをします。

ここからは、これまでの地域の仲間との活動をどうぞごらんください。

[発表者] ありがとうございます。

[委員長] では、こちらのほうで質疑を進めさせていただきます。委員のほうから質問させていただきますので、ご回答よろしくお願ひします。

いかがでしょうか。

[委員] 先ほどおっしゃっていましたがセンター事業とティアラさんの活動との違いと、自由度が高くなるという、そのあたりを少し説明していただけますでしょうか。

[発表者] 自由度を高めたいと思ったきっかけは、白井駅前商店街の方々とかわり始めてからなのですけれども、公民館の事業の中では、公益性だったり営利団体といったところで、なかなか地域とつながるのが難しい制約というのがございます。

その一方で、フランチャイズのお店であったり個人商店の方から、一緒にまちづくりをしていきたい、あるいは僕も実はギターをやっていて一緒に活動したいのですという方が、熱心にわざわざ訪問してまで、チラシを見たりポスターを見たり、コンコースの中のいろいろな情報を見て訪れてくださるのですけれども、そこの方々と手をつなぎにくいという

のがありまして、今回ここに申請させていただいたきっかけというのがございます。

それから内部的な話では、駅前商店会という会のほうがなかなか衰退していった中で、駅前のお店同士をつなぐきっかけにもなりたいと思っておりまして、そういう橋渡しというのが公民館の中だけではなかなか難しいところがありまして、ただ私たちはすごくたくさんのネットワークを持っていることは自負しております。そして、きょうもここに立つに当たって、いろいろな方から、ティアラーですけれども応援をいただいております、何かこれが形になった暁には、こういうふうに運営していったらいいよとか、あるいは嘆願書を書いてやるよとか、いろいろ言ってもらっているのですけれども、私たちの中だけでパワーを秘めておくのはもったいないなと思っておりますので、公民館の事業とは、また金銭的なところも別にして、活動も勤務体系も全く別のものとして活動していきたいなと思っております。

[委員長] ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

[委員] サロンをやっていきたいですということで説明があったのですが、具体的に少し説明していただけますでしょうか。

[発表者] サロンは、とにかく私たちは音楽を発信するところに重きを置いているというよりは、人が集う場所が必要だなと思っております。なので、私たちだけではなくいろいろな音楽活動をしている人、あるいはそれ以外の部分でもいいのですけれども、まちづくりに関与したいと思っております人を集めて何かをパフォーマンスしていただいて、そこでお茶などを提供する中で、人々が集うきっかけづくりをしていきたいなと思っております。人がつながるといところで、とても重いウエイトを置いていまして、そこでつながり始めると動きが生まれますので、動いて循環していくといところで、とても人材というのが必要になってくるのかなと思っております。それが私たちの役割かなと思っております。

[委員長] いかがですか。

どうぞ。

[委員] ○○と申します。ティアラさんの活動は、私も何度か目にしておりまして、通常は音楽活動といいますと、コーラスだったり大正琴であったりウクレレであったりがほとんどで、フォークやポップス、ロックといったジャンルというのは、なかなか披露する場所がないのですね。でも、若者はもちろんですけれども、高齢者の方でもそういったものが好きで、特に若い人たち、自分たちで地道に練習して発表したり、披露する場所が欲しいと思っております子供たち、そういう子供たちをこれからバックアップして、そういう場所をつくってやりたいというお気持ちはありますか。

[発表者] ぜひ、白井の音楽が好きな、音楽は本当に人の心を癒やしますし、それからとても元気な気持ちを取り戻すことができますので、そういった場所づくりを今は駅前センターの中での制約がありましたけれども、それを超えて一団体としていろいろな企画やイベントも私たちは人脈を使ってとか、いろいろなノウハウ勉強しながら、ぜひ白井のまち

を楽しい、みんなが元気あふれるまちにしていきたいと思いますので、ぜひそういった音楽と一緒にやっていきたいという各グループの団体さんがいましたら、企画していきたいと思っております。

[委員長] よろしいですか。

[委員] もう一つだけ、そういった活動は、私は本当にとってもいいと思うのですがけれども、もう一つちょっと気になることがあります。5ページの事業スケジュールの中で、先ほどちょっとあったのですが、ティアラさんの事業とセンターの行事との線引きとか区別について、もうちょっと深くお伺いしたいのですが、四つほどスケジュールとして上げられているのですが、この中でセンターさん主体ではなくて、ティアラさん独自のティアラさんだけの事業というものは、どれになりますでしょうか。

[発表者] 西白井駅のもの、白井駅前のもの、この二つの事業について予算書のほうを出させていただきました。駅前センター主体の事業については、予算書の中の数字は載っていないので、別になるのですが、活動と考えると、ティアラとしては、そちらに参加して盛り上げていきたいなと思っているので、中に入れさせていただきました。ただ、予算書とは別ですので、その点よろしくお願いたします。

[委員長] よろしいですか。

[委員] 楽しいプレゼンありがとうございました。今の続きみたいところなのですが、確認といいますと、事業スケジュールの中で9月の軒先市と、白井駅前盛り上げライブが今回の申請事業ということでよろしいですね。

[発表者] はい。

[委員] サロン型イベントということがキーワードだと思うのですが、具体的なところがまだイメージできてなくて、それが指しているのは、9月と11月のこのイベント全体がサロン型イベントということになるのでしょうか。それともまた別の活動を指しているのですか。

[発表者] ほかにできればサロンを主催してやっていきたいなと思うのですが、事業予定の中に入っている二つについても、その中で集える場所ができればいいなと思って、それをその中ではサロンと書かせていただいたりもしたのですが、そういった意味で入っています。

[委員] ティアラさんの役割を二つというか、一つは軒先市とかライブ全体、イベント全体をコーディネートすることと、その中で音楽を披露というか演奏というか歌われて、そこでサロンの場をつくるっていう、そういう二つということですか。

[発表者] できればいいと考えております。

[委員] わかりました。

[委員長] どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございました。

<発表団体名 らくだ会>

[発表者] らくだ会の〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

[委員長] マイクありますので。

[発表者] よろしくお願ひいたします。今回は、回想法スクール、元気なうちから楽しく認知症予防をということで、ご説明をさせていただきます。

ごらんいただきたいのは、こちらです。白井市の老年人口の比率ですけれども、48位です県内で、まだまだ若いじゃないということになりますけれども、お手元の資料をごらんいただきたいと思います。

お手元の資料の1枚目に、年齢別人口（5歳階級）というのがございます。こちらを見ていただくと、一番多いのは40歳から44歳ですけれども、その次に多いのが65歳から69歳の年齢層になっております。下の表を見ていただくと老年人口の推移ということで、65歳以上の方、年々ふえていくというふうに右肩上がりになっております。

そこで厚生労働省のほうも、もちろん力を入れておまして、既に高齢者のうち4人に1人が認知症、または、その予備軍とされているというふうに、つい最近3月19日の全国の担当課長会議資料になっております。今後も大幅に増加すると見込まれる。認知症は、ご本人はもちろん、ご家族や地域社会に大きな影響を与える。この課題にチャレンジしていくことは、生涯現役社会の実現に避けて通れないというふうにされております。

じゃあ、回想法スクールってどうやるのということなのですからけれども、参加者とレミニン者、アシスタントボランティア、レミニンって回想する人のことなのですからけれども、その4人が原則グループになって楽しく会話をする、1時間程度です。そのアシスタントボランティアは、回想法の訓練を受けます。回想法スクールは2カ月間毎週やるのですけれども、それが2カ月間終了すると、本当は3カ月なのですからけれども、今回初めてなので2カ月ということです。参加者には卒業証書、これは日本回想療法学会から発行されます。アシスタントボランティアには、レミニン者認定書というのが授与されますので、これは自分がステップアップしたような、そういった達成感みたいなものも得られると思います。

終わっちゃったらどうするの、2カ月終わっちゃったらということなのですからけれども、その後は、1カ月に1回か2カ月に1回、レミニンカフェというものを開きまして、飲み物代とか、そのぐらゐの実費で気軽に参加できるカフェをやろうというふうに計画しております。そこでは訓練を受けたアシスタントボランティアが参加者をお待ちして、楽しく会話をするということになります。

また、お手元の資料の2枚目を見ていただきたいと思います。認知症と、おしゃべり回想法というのがございまして、真ん中のほうですけれども、10歳から15歳の記憶の中にA D L記憶、日常の生活、行動の記憶があるということで、その記憶を失わないようにす

ることが日常生活に支障を及ぼさないようにするというのが言われております。

ということで、脳に酸素を供給して、運動とかで供給できるのですけれども、その酸素を消費しないとやはり脳が活性化しないということで、それをどうしたらいいのかというのが、おしゃべり回想法ということに、それもおしゃべり回想法がその一つということで、また次の資料を見ていただきたいのですけれども、講演会を行います。ここで回想法ってどんなのこのことを知っていただきます。補助金がいただければ無料で幅広く参加していただけますが、いただけない場合は有料で開こうということも考えております。その場合は、そういう費用が負担できる方ということになってしまうので、ちょっと範囲が狭まってしまうかなと思います。ぜひ補助金のほう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。ありがとうございます。

[委員長] どうもありがとうございます。そうしましたら、委員のほうから内容についてご質問させていただきますので、お答えいただければと思ひます。

皆さん、いかがでしょうか。

[委員] プレゼンテーションありがとうございます。今回の事業のご申請が、主に講師の方による講演というか、ボランティア育成というようなところだと思うのですけれども、うまく理解できなかったのが、この講師の方って、どういうお立場の方なのか。講師と学会との関係って、どういう感じなのか。

[発表者] この資料を見ていただきますと、NPO法人で日本回想療法学会というのがございまして、その会長の小林幹児先生という方が取手にいらっしゃるのです。取手のほうでは、市の事業として、この回想法スクールを7回開催しております。その先生に来ていただいて、アシスタントボランティアは訓練を受けていくという形になります。スクールは1時間やるのですけれども、その後またアシスタントボランティアは残っていただいて、回想法のやり方について、先生からご指導をいただくということになっております。

[委員] ボランティアさんが授業を受けた後は、学会のメンバーになっていくという感じなのか。

[発表者] そこは、特にそれは希望すればなると思ひますけれども、認定、その関係がいまいち私のはっきりつかんでいません。学会に入らなければならないということはないのではないかとと思ひますけれども、確認が。

[委員] そうですか。学会の方の何か講演が主だったので、その人材育成であれば学会の費用でやるべきことでもあるのかなと、ちょっと思ったりもしたので、そこと市民活動との関係がうまく理解できなかったのが、そんな質問をさせていただきました。

[発表者] そこは確認が、入らなきゃ終了証を出さないよということであれば、会として出せるかなと思ひております。

[委員長] よろしいですか。ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

[委員] 先ほど、こちらのお金がいただけないと有料で開催することも考えているとおっしゃいました。有料は幾らぐらいを想定されていますか。

[発表者] 有料の場合は、レミニンと参加者の方と、それからアシスタントボランティアの方と両方からいただくということで、1回500円ずつの見当で考えております。月4回ですので、1カ月2,000円ということで、20人ずつ集まれば1カ月で8万円になりますので、それで先生の費用と考えております。集まらなければ、先生もボランティア値段でやってくれると言っておりますので、それなりにということで考えております。

[委員長] よろしいですか。ほかいかがでしょうか。

私から、今回、事業スケジュールの中には先ほどおっしゃっていたとおり、講演会とスクールというのが入っていると思うのですがけれども、補助金とかの性質上、基本的に受益者、参加者の方が限られている事業よりかは、広くやったほうにお金をつけやすいというのがありまして、予算づけを拝見しますと、恐らくスクールのほうの講師謝金とかが計上されていると思うのです。

なので、スクールはやっぱり人数が限られてしまうじゃないですか。なので、先ほど〇〇さんからもあったとおり、スクールは、どちらかというとなん回も専門的なスクールとなってお金を払っていただくと。むしろ講演会は、例えば無料でやられると思うのですがけれども、無料でやって、広く多くの市民の方が受益者となるので補助金とかを出しやすいという面があるのですけれども、そこら辺のお考えみたいなのはありますか。

[発表者] 講演会のほうは、千葉県福祉ふれあいプラザの出張研修というところに申し込んで認められたので、これは無料でできるのです。

[委員長] 別の助成金がついたということですね。

[発表者] そうなのです。それで今回の事業は、回想法スクールのほうで申請しております、回想法スクール。その後のレミニンカフェにつなげたいというのがあります、そうすると広くいろいろな方が。ただ一応ある程度訓練を受けた者が相手をしないと、なかなかお互いに自慢話ばかりになると困るので、そういったことで、その下地づくりにはスクールが必要かなと思っております。

[委員長] わかりました。ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 将来展望のレミニンカフェについてなのですが、そこはどんな人でも無料で参加できるようなものになるのですか、レミニンカフェのイメージは。

[発表者] 形はいろいろあるかなと思ってしまして、気軽に来ておしゃべりということになると、何か雰囲気喫茶店というか、喫茶たんぽぽとかありますよね。ああいった感じのところ、本当に安い金額で飲み物を飲んで、気軽におしゃべりという形のほうが参加しやすいのかなというふうに考えております。

[委員長] よろしいですか、時間ぴったりなので。ということで、どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございます。

<発表団体名 笑いヨガ>

[発表者] 笑いヨガの会長の〇〇、総務の〇〇です。どうぞよろしく申し上げます。早速、笑いヨガの実践をさせていただきます。

(笑いヨガ 実演)

以上です。どうもありがとうございます。〇〇さんどうぞ。

[発表者] 〇〇でございます。最近、皆さんの耳に入った65万人、その次に35万人、これわかりますか。家の中に閉じこもっている人、9年以上もの方で閉じこもっている人が65万人、ヤングの人が35万人、両方足すと100万人になるでしょう。これをやっとならんと総理府が認めてマスコミに発表したのです。

それで、ここからが私どもの出番なのです。ご相談がありまして、体のご不自由な方で車椅子の方たちが外へ出ようと、いわゆる一般の方のところへ行って我々も普通の生活しようじゃないかと、ところが千葉県公民館で、どこもやってないのです。

それなもので、駅前センターが、どうでしょう、力を貸してくださいよということで、駅前センターの所長に相談したら、いいですよ、力を貸しましょうと始めて、ですから問題はあるかもしれない。だけど、やりましょうよと。ですからこれは、役所にもまだ許可を取ってないけれども、要するに100万人のうちの1人でもいいから、ハッピーになれる人をつくろうじゃないかということでスタートしました。

今、彼女が声を出す笑いのヨガをやっている。私、皆さんに教えてさしあげるのですけれども、声を出さずに笑うのです。朝起きたときに1回、それから夜寝るとき1回、昼間食事のとき、合計3回、そうしますと、これでみんな元気になれることができるわけです。難しくないのです。声を出さずにハハハハ、笑いはこれで十分、脳外科の先生が、この証明をしてくれております。おまえどうなのと。

[事務局] 時間になりました。

[委員長] 残りは質疑でちゃんとお聞きしますので、区切らせてください。そうしましたら、委員のほうからいろいろとご質問させていただきますので、お答えいただければと思います。

いかがでしょうか。

[委員] 申しわけありません、いま一つわかりづらかったのですけれども、駅前センターの所長さんが受け入れてくださったというのは、どういうことをでしょう。こういう団

体をつくるに当たって、場所を貸しましょうというお話だったのですか。

[発表者] これは前からやっているのです。ところが、ルールは全て健常者が対象なのです。体の悪い人が入るようなルールはどこにもないのです。それは例えばトイレなどもつくってくださったから、体の不自由な人が入るトイレはありますけれども、ルールなのです、要するに。元気な人たちが相談してつくったルールですから、これでぐあいの足の悪い人、体の悪い人、やりなさいと言ったって、これは無理です。

だって、私、車椅子をお手伝いしたことはあるけれども、乗ったことはないのです。一体車椅子の人がどういう心理であるのかというのは、本人を引っ張り出して、この人が困っているのを一緒に悩んで、どういうことに直してくださいよとお願いして、役所にもお願いしてルールを変えてもらうしかないのです。これはやらなくちゃだめなのです。

そのための第一歩として、我々を管轄している駅前センターの所長とか介護センターの所長にご相談したら、ああいいですよと、手を貸しますよと、問題が起きたときに初めて問題を考えましょうと。介護保険の中にもルールはあるのです。だけどその人たちが出てきて、どうなるの、20年も30年も家から出たことない人が出てきたときに、何が起きるのですか。

[委員] 車椅子の人が入りたいと言ってくれたということですか。

[発表者] はい。それで相談されて、入りたいということでお受けすると、この次は、皆さんに手を貸してもらわなきゃならないのです。天下の白井市に手を貸してもらいたいということで、きょうはぜひ皆さんに聞いてもらいたい。皆さんが手を貸してくれない限り、困っている人たちを助けることができない。助けることができないから100万人もふえちゃったのです。この人たち年金もないのです。お母さんの年金のあれを食べているのです。お母さんが死んでしまったら、年金ないのです。無年金者が100万人もふえるのです。

[委員長] せっかくなので、ほかの方も質問したいと思うので、別の方もいいですか。よろしいですか。ほかの方もいかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] 参加される方についてなのですが、大体10名ぐらいを見込んでいますよということで、こちらの事業スケジュールに書かれていらっしゃるのですけれども、この10名というのは、決まった同じ方なのか、いろいろな方が来ての10名なのか教えてください。

[発表者] よくぞ聞いてくれました。皆さんが、一番は、世話役は嫌なのです。来たいときに来て、やりたいときにやって、人の面倒なんて嫌なのです。ですから、我々は、どうぞ1回でも多く来てほしい、やってほしいということで、フリーなのです。だから、ただ部屋は大きさ決まっていますから、ここは何人までですよと、その人数分は守っているわけです。

ところが、その日は例えば孫が来るから、きょうは休むよと、どうぞと、今度は大変な事態になってくるのです。なぜかということ、人の手を借りなきゃならない人もいるのです。

車椅子の方の、この人たちをどうするの、我々市民が責任持ってやらなくちゃならないのです。自由なので、自由だ、自由だといっても、我々は皆さんに自由の一部を提供してくださいねと、それは何のためだと、体の不自由な人たちのために少し提供してくださいねという、今やっているわけです。決して共産主義でも何でもないので。自由の中には義務もあるので。それを理解してほしい。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] いただいた申請書で、その中にサークル、笑えば元気というグループと、それから、きょう団体名、笑いヨガ、これって同じものなのですか。

[発表者] 同じものなのです。

[委員] そうなのですか。

[発表者] ただ、今言ったように、世の中が変わっていくと我々も変わらざるを得ないのです。そんなひきこもりの人まで我々がしよい込むことないでしょうということ、それは理論として正しいのです。だけど相談されたら、みんなが、じゃあ面倒見てやろうよとできるだけ、そうすると会のあり方が変わってくるわけです。

[委員] そこを伺いたいと思って。どう変えようというふうに思われているのですか。

[発表者] 場所とりがあるわけです。皆さんご存じだと思うのですがけれども、公民館というのは、毎週、毎週申し込みで変えていくわけです。その中に優先権なんかないのです。体の具合が悪い人が入るなんていうことは考えていません。ですから駐車場もないのです。

駐車場ご存じですか、あなたたち、元気のいい人がガーッと来て先に駐車しちゃうのです。身体障害者の方が入るときには、もう場所がないのです。なぜかという、身体障害者の方が来るということを想定されていませんから。

[委員] そういう方たちの声を公民館とか市とか社会に発信したいという思いがあって、団体名も変わったという。

[発表者] 変えていくわけです。

[委員] そういう理解でよろしい。

[発表者] はい。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] どうもありがとうございました。

[発表者] よろしく願いいたします。

[事務局] 審査結果につきましては、4月下旬から5月上旬に市民活動支援課より通知いたしますので、本日はこれで終了になります。ご苦労さまでした。

[発表者] 皆さんどうもありがとうございました。よろしくどうぞ。

<発表団体名 ウィングス>

[発表者] こんにちは。ウィングスです。よろしくお願いいたします。

私たちウィングスは、地域の高齢化に伴いまして人々の外出が減り運動不足になってしまいう問題、また他の地域から移住によって引っ越されてきた方々の孤立しがちな問題に着目しています。そこで本グループ活動によって、日常生活に必要な筋力の向上や地域のコミュニティを広げることを目的としています。

きょうは、実際に行う予定のレッスンを少しだけやらせていただきますので、よろしければ皆さんも、手だけでも構いませんので、ご一緒に動いてみてください。

[発表者] きょう行いますのは、竹踏み体操です。私が講師役で、生徒役をやってもらいます。

それでは、両足を曲げます。あと2回。歩きます、ゆっくり。足の指を載せていきます。足の指を刺激していきましょう。真ん中で踏みます。軽く膝を緩めてバランスのいいところで踏んでいきましょう。かかとで踏みます。腰のツボなどがあります。真ん中に戻ります。バランスいいところで踏んでいきましょう。足の指で。下で歩きます。足元上って、おります。ゆっくりおりて、繰り返します。手をマットにつけていきます。前、後ろ。手を前に引き、パー、グー、パー、グー、もう1回いきます。グーが前。歩きます。足元を速く、上って、おります。時々足元を見て、踏み外さないように気をつけましょう。1、2、手を前に出します。手を速く、前、下、パー、グー、パー、グー。手、反対、グー、パー、グー、パー、頭の体操です。オーケーです、歩きます。こんな感じでレッスンを進めさせていただきます。

[発表者] 今、見ていただいたのが、青竹踏み体操です。これ以外、おなじみの曲ですとか、昔の懐かしい歌、洋楽、いろいろな曲に合わせまして行う体操も予定しております。5月より、今見ていただいたものともう一つ、2種類のレッスンを毎月3回、白井市堀込にありますスタジオにて予定しています。

1回のレッスンは、40分です。この活動をより多くの白井市の方に知っていただいて健康と交流の場となっただけのように、チラシやポスターを作成していきたいと思っております。そのために必要なこともありますので、今回この助成金のほうに応募させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

以上で、私たちウィングスのプレゼンテーションを終わらせていただきます。ありがとうございました。

[委員長] ありがとうございました。そうしましたら、委員のほうからご質問させていただきますので、お答えいただければと思います。

いかがでしょうか。

[委員] 先ほどレッスンのほうを見させていただいて、とても楽しそうなレッスンで、私も一緒に青竹踏みたいたいと思ったぐらいなのですけれども、いただいた資料の7ページの

予算のところで、ヨガマット代として、1,000円掛ける5枚というのがあるのですが、通常のヨガ教室は、レッスンを受ける会員が各自のヨガマットを持ち込んで受けるのが一般的かと思うのですが、これを経費に上げているのはどうしてでしょうか。

[発表者] 一応こちらのほうでそろえさせていただくというのは、年齢層のことも考えまして、どういったところで売っているのかわからないとかいう方もいるかもしれませんが、一月ごとに月謝をいただいて申し込んでいただいて、今月頑張ってやってみたけれども来月はできないわとか、お引っ越しされてできないわという方がいらっしゃるかもしれないので、こちらのほうでヨガマットも持参して、来ていただいた方に使っていただくという形で、個人持ちではなく、個人の負担をなるべくかけないで体操をやっていただきたいという思いもありまして。私たち、こちらの計画書のほうでも書いてありますけれども、月ごとのいただく会費、こちらがほかの団体より少し金額があるかと思いますが、スタジオを借りたりする経費もありますので、こちらで設定させていただいているのですが、でするので、それ以外の経費をなるべく参加する方にかけてたくないという思いもありますので、こちらの経費に入れさせていただきました。

[委員長] よろしいですか。

[委員] わかりました。ありがとうございました。

[委員長] ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 楽しいプレゼンありがとうございました。実際に見せていただいて、すごくイメージがつかまりました。予算書というか計画書だと、1回あたり3人ですか、受講生というか。

[発表者] 上限は全然決めてないのですが。

[委員] そうなのですか。

[発表者] 今まで私たちの経験で、今回こうやって新しく事業として立ち上げさせていただいたのですが、今まで白井市で体操クラスをやろうと思って応募をしたときに、このぐらいしか集まらなかったのです。

[委員] そういう感じ。

[発表者] 実際私たちが自分たちの手でポスティングをしていける範囲もありますので、今回こういった形で応募させていただいて、チラシとかを市役所の関係するところに置かせていただけるということでしたので、もう少し広範囲に広げられると思うので、人数はもう少し集まるかとも思ったのですが、一応今まで集められた人数で計算させていただいています。

[委員] わかりました。そうするとミニマムが3人で、会場によってはそれなりの人数が。

[発表者] 10人か15人ぐらいまでだったらできると思っております。ただ、最低人数として3人ぐらい集まればできますので、一応最小人数で設定して金額は計算させていただい

ております。

[委員] そうすると最初の問題意識のところ、高齢者とか私も含めて中高年の運動不足とか、それから新しい人たちの孤立ということで、その人たちの交流の場のきっかけにもなると思うのです。そうすると例えば体操して終わりではなくて、少しおしゃべりの時間とかって含めていくと、いわゆる社協さんがやっているサロンとか居場所づくりとか通いの場とかという、福祉的なのか健康施策というか、そういうところに近づいていくかなとも思うのですけれども、何かそういうところの考えというか、何か展望みたいなものっておありですか。それとは違う、そうじゃなくて違う方向でやるというのも、もちろんあると思うので。

[発表者] 実際、今回は白井市内でということで、最後に、終了後の展望というところにも書かせていただいているのですけれども、まずは日常的に運動をするという習慣を身につけていただきたいという思いがまず一つです。今後、範囲を広げてもいきたいなと思っているのですけれども、まずは体操をしながらのコミュニケーションをとっていただくところからスタートしていただければなと思っています。

私たち、別の場所でも体操を教えたりしているのですけれども、そういったところで本人同士が、私たちが特別に何かしてあげるわけでもなくてお友達になって、お茶を飲みに行ったりとかというのが、後々していただければいいんじゃないかなと思っています。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] 先ほど、ペロッとおっしゃっていましたが、月謝とかおっしゃっていましたが、参加費ですよ。月謝ではないですね。

[発表者] 参加費です。済みません。

[委員] カルチャースクールとの違いがいまいちわかりづらくて、公益性に関して、先ほど〇〇さんがおっしゃったように、3人で公益性かといわれるところで、これはどうなのかなと、逆に言えば、起業されたほうがいいんじゃないのという気持ちがちょっと出てしましまして、これを市民活動の公益性に当てはめたというところのお考えを少しお聞きしたいかなと思います。

[発表者] 私たちは、借りられるスタジオが、まず白井にあるということと、白井のほうでご高齢の方がふえていとお伺いして、せっかく自分たちのできることがあるのであれば、そういったのをやらせていただいたらどうかというのが、まず一つです。

起業に関しましては、後々軌道に乗って起業につながる可能性もありますけれども、まだ私たちもほかの、家庭があったりですとか、その中でできる範囲で考えますと、まずは市のほうに貢献できるような形でやらせていただけることは何だろうかと考えて立ち上げた案なので、そこまで具体的に事業として立ち上げてやっていこうというところではない

のですけれども、白井市の方に喜んでいただけるサービスは何かできないかなと考えた案になっています。

[委員長] 済みませんが、時間となりましたので、本日はありがとうございました。

[事務局] 審査結果につきましては、4月下旬から5月上旬に市民活動支援課から通知いたします。本日はこれで終了となります。ありがとうございました。

[発表者] ありがとうございました。

<発表団体名 防災リアル訓練 in 桜台実行委員会>

[発表者] それでは、ただいまご紹介いただきました、〇〇でございます。私は、桜台地区で行っています防災リアル訓練 in 桜台実行委員会の委員長をしております。よろしく願いたします。本日はこのようなお時間を頂戴しまして、ありがとうございます。

それでは、スライドのほう、こちらになります。もし平日の午後に震度6強の大地震がこの白井で起きたらどうなるのかということですが、都内への通勤者が多い桜台地区では、共働きの家庭は白井に帰ってこられないということになるかと思えます。伊澤市長は、常々、公助、共助、自助に加え、近助という形で申しているかと思えますが、つまり今いる人たちで何とかしなくてはならないという状況になるかと思えます。

桜台小学校区の安心安全を確保し、地域全体の防災力をさらに向上させるために、平成29年からこの防災リアル訓練を始めて、ことしで3回目というような形になります。目的と事業内容については、事前資料のほうに載せてありますので、今回は割愛させていただきます。

ここでは演習内容についてご説明させていただきます。プログラムの資料をごらんください。

全体セミナー、演習、グループワークを行いまして、避難生活を想定し、実際の避難所となる桜台小学校体育館に宿泊をしまして、夕食はおにぎり、朝食は非常食のアルファ米、お湯を入れて30分ぐらい置いておけば食べられるというものを皆さんで食べたというような状況になります。

こちらの写真ですが、これは前年度、昨年度の写真になります。私たちの団体は、皆さんがボランティアで活動しておりますので、予算がないというようなことから、低予算で何とか行事ができるようにというようなことで、市役所の担当課の職員にお願いをして行っておりました。

まず、市長にご挨拶をいただきまして、全体セミナーは危機管理課の職員の方をお願いをしてまいりました。DVDを視聴したりとかしましたので、子供は大変わかりやすかったというようなお話をいただいているわけですが、一方、地域の大人の方からは、もっと踏み込んだ内容がいいかなというようなお話を頂戴しております。

そこで今年度は、補助金交付をいただきまして、防災士の専門知識を有する方を講師としてお招きをして、地域の方にも満足をしていただきたいなど、実りのあるものにしていきたくて思っております。

ほかのプログラムにつきましては、15人ぐらいのグループに分かれまして、AED訓練や初期消火訓練、防災井戸や防災倉庫の資機材の展示を行ってまいりました。その下のグループワークですが、こちらは日ごろの備えがあなたを救うと題しまして、非常持ち出し袋のコンテストや避難生活で必要になると思われるものをつくりました。この写真は、ごみ袋で雨がっぱをつくっている写真になります。そのほかに新聞紙でスリッパですとかマフラー、簡易トイレもつくってございました。

こちらの写真は、健康課の保健師さんによりますバイ菌マンチェックになります。薬品クリームを手に塗って、一旦手を洗って、その後ブラックライトを当てて、どれぐらい落ちていないかというような検査キットみたいのがあるのですが、そういうのを行った後にご飯という形になります。

夕食につきましては、おにぎりをPTAのお母さん方に握っていただいたものを食べまして、その後は防災〇×クイズですとか毛布リレーを行いました。間仕切りを利用しまして、子供たちが仲よく寝たというような形になっております。朝はアルファ米のほうを。

[委員長] ありがとうございます。質疑の中でまた、お話しできなかったところは、触れていただければと思います。そしたら委員のほうからご質問させていただきますので、お答えください。

いかがでしょうか。

[委員] とても素晴らしい活動だと拝聴しておりました。実際には、2年ぐらいされているのですか。

[発表者] そうです。

[委員] 実績もおありですし、素晴らしいと思えました。

教えていただきたいのが、一つは実行委員会形式でやっていらっしゃるということで、市のほうには出されたのかもしれないのですけれども、審査員のほうにはその名簿がないので、実行委員会とはどんな体制なのかというところを一つ教えてください。

[発表者] ここの実施体制という形で、主催と。

[委員] 済みません、ここまで行かなかったもので、申しわけありません。

[発表者] 共催の部分のところ、PTAの団体ですとか自治会ですとか、防災局というような形で、いろいろな各地域の団体の方が加わっていただきまして、それぞれの団体の代表の方に実行委員会の役員という形をお願いしております。

[委員] わかりました。そこの実行委員会で、一番上にPTA連絡協議会が出てきて、そこに事務局もというか、連絡先といいますか置かれていて、例えばここが桜台小中学校

区というか、そのエリアの活動だと思えるのですけれども、PTA連絡協議会が何か資金的な援助とか、何かそっちで出してくれたりしないのですか。

[発表者] 実は、これ29年度からこの活動を行っているのですが、28年度のときの私が小学校のPTA会長をしております、それでほかの学区でもこのリアル訓練をやっているというようなことから、桜台でもやりたいということで立ち上げた関係がありまして、PTAのほうは初めは中心でという形でスタートいたしました。

ただ、PTAのほうもだんだん今子供が少なくなってきておりまして、会費のほうがかつつの状況なので、とりあえずかかったものについては、それぞれの団体で割り振りましようという形で行っております。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

私から、よろしいですか。予算を拝見すると、ご発表でもあったとおり、防災士の方をお呼びするための謝金が結構ほとんどを占めているという感じもするのですけれども、私も相場がわからないのですけれども、防災士の方を呼ぶと、やっぱりこれぐらい、お一人5万円ですか、1日というぐらいかかってしまうものなのか。あと防災士の方は、一緒に泊まってくれたりするのか。結構な金額をお支払いするので、せっかくなら冒頭のお話、講話だけではなくて、何かその後も子供たちと一緒に泊まっていたりとか、あるいは間仕切りの設営はこうやったほうがいいのかアドバイスしていただくとか、せっかく白井に来ていただくならお泊まりいただいたほうがいいのかか思ってしまったのですけれども、そこら辺、何か考えがありましたらお聞かせ願いますか。

[発表者] 一応5万円ということで、謝礼金のほうを計上させていただいておりますが、実は来ていただいて全体セミナーというふうな形はメインになるのですけれども、それ以外の全体の内容ですね、今までは本当に私たち素人がプログラムをしていたわけですが、今回は消防士の方に全体のプログラムを構成もお願いをしようというふうに考えております。

実は、人が来るだけだともうちょっと安いのですが、起震車というのが、地震体験をできる車を持ち込むと、これぐらいの金額になるということでお話をいただいております。今、貴重なご意見をいただきましたので、今後また防災士の方にお問い合わせするときに、ぜひ泊まってくださいとお願いしたいというふうに思っております。

[委員長] ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] いつもすばらしい活動をされているなと思っております。桜台地区ってちょっと特殊なので、徐々にしか自治会さんの参加がないのですが、今年度どうでしょうか。自治会さん、どれぐらい広がってきましたでしょうか。

[発表者] とりあえず、壺番街と式番街のほうはぜひやりたいというようなお話をいただ

いておりますので、昨年、六番街のほうも入ってきているというような状況でありますので、徐々にという形にはなろうかと思えます。

[委員長] よろしいですか。ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

[委員] とてもすばらしい活動をされていると思うのですけれども、もう3年目ということで、勝手知ったる感じになっていると思うのですけれども、参考としてお伺いしたいのですけれども、子供たちの中にはアレルギー体質の子とか、そういう子もいたんじゃないかと思うのですけれども、こういう防災食などについては、これまで問題というか、食べられない子とかいたことはあったのでしょうか。

[発表者] 実は、初年度は夕食のおにぎりという形のみで、2日目の朝はなしという形で行いました。昨年度につきましては、先ほどスライドのほうでもご紹介しましたけれども、夜がおにぎりの朝がアルファ米というような形だったのですが、今まで参加の方ではアレルギーの方はいらっしゃいませんでした。事前説明会を保護者の方をお呼びして行のですが、その中にも、アレルギーがもしある方がいれば申し出てくださいということで対応してきております。もしアレルギーの方がいた場合には、食事はどうしよう、親御さんに持ち込んでいただくという形になろうかなというふうには思っております。

[委員長] よろしいですか。ありがとうございます。あと、もう一方いらっしゃれば。

[委員] ちょっと気が早いことかもしれないのですけれども、活動の実績がおありなので、次は継続とか発展に向けての組織づくりの組織の継続というところが重要になってくると思うのですけれども、最初の方々が熱心に始められて、それを継いでいく方とか、そこから辺何か。ちょっと気が早い話なのではと思うのですけれども。

[発表者] まだ団体、各自治会等の団体の方が、これからどんどんふえてくるというような状況なので、将来的には自治連合会の活動だとかというような形の位置づけができればいいのかなと、そこと一緒にタイアップをしてやっていければいいかなというふうに思っておりますが、現時点ではとりあえずいろいろな団体さんに参加をしていただくような状況になっております。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] それでは時間となりましたので、どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございます。よろしく願いいたします。

<発表団体名 白井防災ママ JUMP >

[発表者] 白井防災ママ JUMP の〇〇と申します。どうぞよろしくお願い致します。

[発表者] 白井防災ママ JUMP の〇〇と申します。よろしくお願い致します。座らせていただきます。

[発表者] 私たちが進めているのは、ママが進める共助のまちづくりです。公助、公の助

けど、自助、共助とあるのですけれども、自助と共助の部分をママJUMPは担当したいと思います。公助の部分では白井市さんにアドバイスや備品を確認させていただいて、一緒に活動していきたいと思っています。

私たちの身の回りの課題としては、大規模な震災がいつ起こらないかわからないです。子供がいると避難所で過ごしづらい、市や学校、センターなどで準備している公共の備蓄だけでは十分ではない可能性があります。地域のつながりなどない人は、死亡率が高いとも鎌ヶ谷市で習いました。

私たちが考えた解決方法は、家族の備え、2共助の和、3発信です。1の家族の備えでは、私たちは、気づきをしていただけるように、お話し会に行き説明しています。共助の和ですが、防災ママJUMPとつながっていただけることで、普段助け合えるような状態にして、そして気づきも持ってもらって、普段から周りの人と助け合えるような気持ちになっていただけたらと思います。3は、Facebookで情報を広く発信しています。

具体的なアクションとしましては、我が家の防災ノートの制作です。こちら既にあるのですけれども、我が家の防災ノートというのをもっと深めてつくりたいと思っています。内容的には、家族の連絡先、緊急時サポーターズリスト、そして写真を張るのが特徴です。あと、家族として必要なものは何かというのを書いておきます。これを1人1冊ずつ持つということです。

アップデートの方法としましては、白井市独自の防災情報を加えたいと思います。白井市は川が流れていますので、水害が考えられて、あと464が走っているのですけれども、それも寸断された場合には物資が滞る可能性があるため、それについても書いておきたいと思っています。備蓄が必要になるということを書こうと思っています。

それから、パンフレットですが、お手元の資料の最後のページのほうになると思うのですけれども、かわいい女の子とママなのでも、書いてあると思います。お手元の資料。こちらです。こちらのようなパンフレットをつくって、補助金をいただいて広く発信していきたいと思っています。防災ママJUMPの紹介、それから必要な情報をまとめて掲載したいと思っています。

ベネフィットとしましては、防災知識のうち身近なところから備えられる、いざというときに動ける白井市近隣のママをふやし、地域のつながり、災害時に共助ができるまちづくりに貢献したいと思っています。そして、これまでの活動ですけれども、抜粋です。

[委員長] ありがとうございます。触れられなかったことは、質疑でまた補足していただければと思いますので、また質問にお答えいただければと思います。

皆さん、いかがでしょうか。せっかくなので、それ回していただいているですか、実際の防災ノート、〇〇さんから。

ご質問は随時。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 防災ノート、今、回していただいている、あるのですよということだったので、今年度は防災ノート、パンフレットづくりということでスケジュールに載っていて、新たに別のものをつくっていくということになるのでしょうか。

[発表者] そうです。これをもっと深めて、しっかりしたものをつくって、1部100円で頒布させていただいて活動資金に回す。パンフレットのほうは追って配布するという形にしていきたいと思っています。

[委員長] よろしいですか。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 防災の取り組みっていろいろある中で、小さなお子さんを持ったママ目線、とても重要だなと思って伺っていました。

今、見せていただいて少しイメージがついたのですけれども、繰り返しになっちゃうかもしれないのですが、防災ノートづくりの活動は、防災ノートのフォーマットというか、体裁を書いていくという活動なのですか。

[発表者] それをバージョンアップして白井仕様にして、必要な情報をもっと深めたいと思うのです。流山市のパンフレットがあるのですけれども、それのようにもっと深めた内容を一緒に書いておけば、災害時にパッと開いて何が必要だったっけということにしたいと思います。

[委員] いろいろなところの先駆例をどんどん取り込んでいく、いいとこどりしてつくろうというような。

[発表者] はい、そうです。

[委員] わかりました。あとパンフレットのほうは、さっきこちら側だったので、けれども、計画書、申請書だと防災情報を盛り込んでいくということだったので、いろいろなところの、またこれもどんどんバージョンアップというか。

[発表者] そのつもりです。もっと六つ折りで両面12ページになるのですけれども、そういうもっと細くなっちゃうのですけれども、持ち歩けるハンディタイプのものにしてお財布に入れてもらうとか、そういうようなこと。

[委員] 具体的には、何かそこに盛り込む情報ってイメージありますか。

[発表者] それに盛り込む情報としては。

[委員] 避難所とか。

[発表者] そうです。避難所とか、あとは普段持ち歩いたほうがいいもののリストとか、あと連絡先です。

[委員] 防災ノートとリンクしているような。

[白井防災ママJUMP(金丸)] リンクしているような形になります。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

どうぞ。

[委員] 事前にいただいている収支予算計画書の中に、外部講師謝礼謝金というのがあるのですが、これは計画書というか、事業スケジュールの中のどの部分に当たるのでしょうか。

[発表者] さらしおんぶの先生をお呼びして皆さんで学びたいと思って、自分たちでも覚えて広めたいなと思っています。

スライドの一番初めに、さらしって腹帯で使う長いものなのですけれども、これをおんぶ紐変わりにもできますので、それをいざというときに覚えておけば、ちょっと大きいお子さんでも大丈夫だし、お年寄りも担いでいかれるということで、両手があいた状態で逃げられるので、大変有用だと思うので、それに講師を呼ぶようにしたいと思っています。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] 私からも関連してなのですけれども、多分計画書だと、さらしおんぶの講師の方を受講するのは、皆さんのメンバーだけっていうふうに読めるのですが、なるべくなら広くメンバー以外の方も参加できるようにしていただけると白井市の補助金としては助かるのですけれども、そこら辺はまだ。

[発表者] そうしていきたいです。

[委員長] そういうことでも大丈夫ですか。

[発表者] はい。

[委員長] ありがとうございます。ほかいかがですか。

[委員] 今の話ともつながるのですけれども、成果を広く公開していくということと、仲間づくりとして、どんどん活動が見えるようにしていくって重要だと思うのですけれども、それで先ほどのノートとかパンフレットのところで、印刷は1,000部ぐらいご予定ですか。

[発表者] はい。

[委員] その配り方って何か。

[発表者] 各幼稚園とか保育園、市役所さんに置いていただいたりとか、お話し会の際に持っていきこうと思います。

[委員] 私的なお話し会と、それから公的な機関としては、そういう幼稚園、保育所。

[発表者] そうです。あと、バザーというか、白井市のマルシェとかに行って配布を考えています。

[委員] わかりました。健康課でしたか、家庭を回る保健師さんとか、そういう方とも何か連携したり、公的なところとも少しつながりを持てるといいのかなという印象を持ちました。

[発表者] ありがとうございます。

[委員長] いかがですか。まだ時間があるので余談なのですが、こういうものって結構企業さん、地元密着のお店とか企業さんとかが協賛広告とかを広告費として出してくださったりとかもするかもしれないので、ぜひそういう自主財源の確保という点では、100円で売るのも立派な収益だと思うのですが、そういう広告を設けるとか、そういういろいろ工夫をこれからも頑張っていたいただければと思います。

[発表者] ありがとうございます。助かりました。

[委員長] では時間となりましたので、以上で終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございます。

<発表団体名 ふじ元気ひろば>

[発表者] ふじ元気ひろば代表の〇〇と申します。ふじ元気ひろばの設立のきっかけなのですが、白井市と社会福祉協議会が主催する毎月1回行われております「地域ぐるみネットワークふれあい会議」というのが西白井の複合センターで開かれておりまして、その席に出席した折りに地域のいろいろな問題点が出されておりまして、子供から高齢者までのいろいろさまざまな問題を抱えているのだなということは実感をしました。

富士地区は、古いところの住民と、新しくここ数年住宅が建ちまして入ってこられた方が共存しておりまして、なかなかその世帯間の格差がとれない部分もありまして、おのおの問題点が違っておりまして、どうにか何かそこでうまくつながるものがあればいいなというふうに思っていました。

地区にはいろいろな催しものが盛んで、これから5月のこいのぼり祭りがあつたりとか、夏の盆踊りがあつたりとか、秋の祭礼があつたりとか、冬の行事があつたりとか、たくさん行事があるのですが、今やっておられる方はかなり高齢の方が主体となってやっております、もう少し若い人たちが手助けしてくれればいいのにというふうに思ってきました。

その後2017年の1月に、会をつくろうということで我々集まって、会を設立しました。活動は2017年の3月から、まず畑を使って活動しようということで、3月からジャガイモの苗植えから始まりました。

活動の実績なのですが、2017年度が毎月やって開催が10回、延べ471名の参加が見られました。2018年、昨年度なのですが、開催回数が8回で参加者が延べ360名、回数が減った分が参加者が減っていますが、畑でいろいろな活動をするということは天候に左右される部分がありまして、それと2月がインフルエンザの流行と、開催の前の日に雪が降るよということがありまして、急遽中止にしました。そのために2回ほど抜けちゃったのですが、3月がジャガイモの苗植えだったのですが、雨のため中止をしまして、雨の予報が

出ているものですから、畑でとれた、前日、ブロッコリーや三陸蕾菜、チンゲン菜とかを収穫をしまして、参加者に来ていただいて、その場で保育園の玄関先で配ったというふうな経緯がございます。

これからの展望なのですが、市のモデル地区として第三小学校のまちづくり協議会が設立される運びになりまして、そこに私ども白井ふじ保育園が設立準備委員として参画することにもなっております。我々が活動のテーマとしている子ども・子育て世代・高齢者・障害者等への支援交流事業が、地域ぐるみで本格的に取り組まれることに心強く感じております。これまで多くの方々のご協力により、食材、食品、飲料の提供があり、会を催すたびに配布することができて、主催する側としてもやりがいを感じています。

3年目を迎える今年度は、10回の行事の確立と、新たなテーマとして食品ロスをなくす活動も入れていこうと計画をしております。以上でございます。

[委員長] どうもありがとうございました。それでは、また昨年と同じように委員から質問させていただきますので、お答えいただければと思います。

いかがでしょうか。

[委員] ○○です。活動も2年実績がおありで、しっかりというか、地域に定着されているのだなというふうに伺っていました。

確認というか、活動がだんだん定着してきて、ふじ元気ひろばさんのステージというか局面としては、だんだん組織づくりの視野に入ってきているのかなという印象を受けたのですが、そこでひとまず今回の申請事業のところの実施体制で、元気ひろばさんの活動ってどんな感じで企画されたりとか、企画とか、その運営、組織について教えていただけたらと思います。

[発表者] 役員さんになっている方は、常に畑の作業をやっておられる方は、私の高校の先輩が、定年退職になった方が手伝いに来てやっていただいているのですけれども、あと、ほかの食事をつくったりするところは、保育園の栄養士と調理師に協力していただいております。

それと、会の運営との関係上、子供がいろいろな扱いとか、いろいろな家庭の中の裏の事情とかあるものですから、今年度から以前、校長先生をやっておられましたアサイ先生という方にご協力いただいて、一緒に参画していただいております。行事については、毎月季節ごとのものを作っておるものですから、ほぼ大体固定のような形になっちゃっているのですけれども、これがマンネリにならなきゃいいというふうな感じはしております。やはり野菜づくりも、種を植えるときは、あんまり集まってこないのです。いつもそうなのですが、収穫になるとたくさん集まってくるという、そういう状況がありまして、これは何かうまく工夫を凝らしていけないといけないかなという感じは今、していますけれども。

[委員] わかりました。そこの具体的な活動のところは、人が集まってきたというところがわかったのですけれども、もう一つ、例えば会計とか広報とか、それから今回のフードバンクさんの名前が上がっていて、そういうネットワークとかという今度は会の持続性、将来に向けて継続していくところというか、間接業務といいますか、そういうところの何か人というか、体制というのはどうでしょうか。

[発表者] 事務は、うちの保育園の職員にボランティアでやってもらっているのですけれども、今考えているのは、本当に無償のボランティアというのは、なかなか集まりづらくて、これは将来は有償に少し考えていけないといけないのかなと、だけど予算がないしと思いつつ、今いるところなのですけれども。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 先ほど3年目を迎えて、食品ロスをなくす活動もちょっと考えていきたいということだったのですが、具体的に考えているものがあれば教えてください。

[発表者] 食品ロスをやるには、またお金がかかる部分がありまして。何がというと低温冷蔵の倉庫がないと、なかなか。今いただいているものは、ある程度保育園の外づけにある冷蔵庫を使って、その中に入れさせてもらっているのですけれども、大きく集めてくるとなると、そういうものが必要になってきて、それにもまたコストがかかって、これから先、少しそういう基金をお願いして、そういう場所を探っていくって集めていけないとしようがないかなと。

まずそこからやっていると、一番はうちの保育園なのですけれども、子供たちの食べ残しをできるだけないようにということで、そこのところはずっとチェックは入れているのですけれども、今回第三小学校の地区まちづくり協議会と、またこれから出発しますけれども、そこに第三小学校さんも一緒に中に入れてもらって、PTAの方も一緒に入ってもらって、学校でもそういう食品ロスをなくす活動を一緒にやってほしいなど。保育園から我々いろいろなことを教えて、上に上げたものが無駄にならないようにしてほしいなどというのがあるのと、まち全体で無駄にならない食品の有効活用といいますか、消費期限だとか賞味期限手前の物をみんなで分け合うとか、そういう活動にしていきたいなとは思っているところなのですけれども。

[委員長] いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

余談ですけれども、冷蔵庫とか機器類の助成金とかもありますので、丸紅財団さんとか。

[発表者] ぜひ、そういうチャンネルがあったら教えていただければありがたいです。

余談になりますけれども、実はきのうの夕方にニッセイ財団のほうから、子供たちの遊具、外遊びする遊具を去年の秋、子育て支援課からのいろいろな情報提供がありまして、申請していたのですけれども、おかげさまで、合格になりましたよとご返事をいただいて、来月の20日かな、県庁で認証式に出ることになりましたので、非常にそういう点では助か

っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

[委員長] いかがでしょうか。

[委員] 元気ひろばさんは、ちっちゃい子から高齢の方までということなのですが、今現在活動されているので、どちらが多いのですか。

[発表者] 両方といえば両方なのです。これは写真ちょっとあれですけども、これは去年の4月の苗植えをやったときの写真なのですが、次が5月はこいのぼり祭りが、これあれなのです。その後、9月に地域のグループホームで高齢者との交流会をやった、それは圧倒的に高齢者の方が多いです。これが11月に畑で収穫祭をやったのです。そうしたら結構高齢者の方が来られて、一緒にバーベキューをやったりさせてもらいました。大きいとか小さいとかとあんまり分かれてはいないような気がするのですけれども、これは餅つき、1月ので、これが2月、何もつくるものがないので、音楽会をやったら、こんな感じで大人も集まってくるというような状況です。

[委員] 世代交流ができているということですね。

[発表者] そうです。ありがとうございます。

[委員長] というわけで、ありがとうございます。

[発表者] ありがとうございます。

<発表団体名 NPO法人白井助け合いネット>

[発表者] 皆さんこんにちは。私、NPO法人白井助け合いネット会長の〇〇でございます。よろしく願いいたします。こちらは会長代行の〇〇でございます。よろしく願いいたします。

[発表者] それでは、私のほうからプロジェクターを使ってご説明をさせていただく形で、時間を頂戴したいと思います。座ったまま説明させていただきます。よろしく願いします。

助け合いネットは、既に今度の申請で3回目になりますので、基本的には前回、前々回のご説明と大きく変わらないと思いますが、今ここに第5条の定款の5条にあります、居場所（サロン）の設置、運営に係る支援事業ということで、これを自主事業として今回展開をしているということでご報告させていただきます。

このネットの経緯は、既に2回ほどご説明させていただいていますが、市の計画に沿っていろいろサロンを実施する、これは生活圏、平成28年度の1番に書いています生活圏でのサロン、これをやるということで、具体的には活動を始めたのですが、生活圏サロンはなかなか難しい問題がございます、既にやっておられるところだとかがあるので、ネットで独自に施設連携型という形で進めていこうということで、介護施設を当面のターゲットに持ってきております。

実際には、さつきの里、ウィズホスピタル、リハモードヴィラ、菊華園、アンスリールとありますが、ウィズホスピタルさんについては、28年度にやった以外、あとは休憩になっております。先方の設備の問題があって、実施できないという形になっております。

基本的には、効果としてはいろいろ今上げさせていただいておりますような形で、お手元で見ていただければですが、実際には歌うことと折り紙作業を通じて、脳トレにもプラスになるということと、仲よくするというところで実施して、基本的にはチラシを各公民館、それから知人だとか地域自治会に配っていただいております。これが時間の配分でございます。

実際にやりましたのは、さつきの里代表で一応ご報告しますが、これがレッドロープを使った体操、これは折り紙をしながら皆さん、こちらが健康についてのご相談がある場合は健康課の援助をいただいている、これは歌のシーンでございます。ギターをする方、これがモニター、実際には歌の本をこういう形で作りまして、皆さんにその都度配布をして歌を歌っていただいているということでございます。これが体操、これは実際にみんなと一緒にこんな形でやるのと、梨トレを十分にやる、それから、これは折り紙の成果で、実際には、これは各グループごと、あるいは個人で写真を撮りまして、皆さんに記念に差し上げたというようなことでございます。以上で終わらせていただきます。30秒ございませうか。

一応、予算との関係は、実際にまだ確実な集計が出てきておりませんが、大体26万ぐらいの予定が、30万ぐらいちょっと出ております。もうちょっと4月の末ぐらいまでには完成する予定でございます。以上でございます。

[委員長] ありがとうございます。では、昨年と同じように委員からご質問させていただきますので、お答えをお願いいたします。

いかがでしょうか。

[委員] ○○と申します。プレゼンありがとうございます。高齢者の居場所サロン、それから通いの場ってすごく大切だと思いますので、とても重要な活動だと思って伺っていました。

助け合いネットさんが始まった経緯が、もともとの生活圏でのサロンをつくるというのが難しいので、施設連携型ということでご提案されたということなのではけれども、今もサロンづくりを地域福祉の中に位置づけるとか、介護予防のほうの施策に何か位置づけたいとかというのは難しい感じなのですか。

[発表者] この辺は、会長が福祉長いものですから、会長のほうにお答え。

[発表者] もう一度ご質問をお願いします。

[委員] 今のサロンの中で、少し福祉、もうちょっと突っ込んだ介護予防だとか、そういう関係のほうに仕事が連携できないかというふうなことです。

[発表者] もともとこのサロンの狙いは、向こう三軒両隣の構築ということは、お互いに困ったときは助け合おうと、これが私は福祉の一番大事なことかなと思っております。

具体的には、そういう目標で進めておりますけれども、できたら仲よしこよしの友達をつくる、まずは、そして1人でもいいからつくってもらって、お互いに、きょう元気かいというような仲になってもらっていきたい。私は、やはりこういったことが福祉の原点と考えております。

今、お話がありましたように、介護予防とかいう問題ですね、これも十分検討していきたいと考えておりますので、具体的にはそうして精神的にいろいろと気持ちが解放されてくると健康にもつながっていくんじゃないかなと、そういうこともあります。

それからサロンの中では、必ず体操を入れております。健康サロンという考え方で、いろいろ梨トレとか、そういった体操も入れておりますので、言うならば、心（しん）と身（しん）、心と体、この二つを含めた福祉を進めていきたいと、かように考えております。ただいまのご指摘、これからまた考えていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

[委員長] よろしいですか。ほかの方がいかがでしょうか。

[委員] いただいた資料の中で、29年度の収支決算では、繰越金が50万ちょいあるのですが、30年度収支決算的には繰越金はどうなりましたでしょうか。

[発表者] これは最初に促進型を頂戴するときは、事業部だけの申請ということにしていたのです。それをどうしてもいただいた補助金だけではだめなので、ネット全体の形での収支で申告しました。ですからネット自身は今、50万2,000円ほど予算がございます。今回のこの事業をやって、大体50万残っていますので、基本的には、補助金の中で私が担当しております第2事業部として、事業部予算という形でやっていますので、収支決算では、基本的に今期も割り込んでおりますが、10万ぐらい食い込んでおります。42万5,856円が残っています。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ちょっと赤字だったんですね。

[発表者] はい。基本的には、持ち出しでございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

[委員] サロンを通じて、脳トレ、筋トレ、心と体を鍛えて、みんな仲よくなって刺激を与える、とてもいいことをしていらっしゃると思うのですがけれども、ちょっと気になったのが7ページの予算のところ、チラシ1,000枚を24セットということで、2万4,000枚になるのですがけれども、ちょっと枚数が多いのではないかと思ったのですがけれども、どうでしょうか。

[発表者] これは確かにそうなのです。実際には、各公民館さんにも1回30枚ずつ置いています、メモ用紙にされている時間もあって、ちょっと多いかなと思うのですが、これ

をネットの印刷から全部まちサポの印刷に切りかえて、会長のほうからもう少しコスト下がらないかということで、徹底して全部まちサポの印刷に変えました。そのかわり私の作業量がうんとふえましたのでしんどいのですが、これでただ数はふやしていくというよりは、これぐらいは最低配りたいということで、特にこれから自治会さんへの浸透ですね、地区社協さんへの連携、この辺をやりたいので、今は余っている状態があるのですが、少し配り方を考えて、これぐらいの数はふやしていきたいなと思っております。

[委員長] よろしいですか。ほかはいかがでしょうか。

[発表者] ついでに、今の印刷3万9,000円ぐらいの予算にしていますが、約半分ぐらい、約2万円切るぐらいに抑えました。以上です。

[委員長] では、時間もぴったりなので、終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

[発表者(全員)] どうもありがとうございました。

<発表団体 ステップ>

[発表者] 学習支援団体ステップの代表〇〇でございます。お手元に資料がいていると思うのですが、数字の間違いがございますので、よろしかったら訂正していただけますか。

3番の昨年度の会計決算のところで、実は教科書等のところが40円ふえまして、3万9,515円です。したがって繰越金が40円減りまして7万1,090円と、こういう形で。これは精査したらわかったということで、計算間違いでございます。

では、早速、中身に入らせていただきます。

今回ステップは、市の補助金をいただいて、本年度3年目の活動に入ります。今回の審査基準が公表されていまして、それに沿った形で、四つ項目を立ててみました。

1番目が、必要性和公益性ということでございます。それは、まず日本全体の課題であると、学習支援あるいは子供の貧困対策としての学習支援というものが、文科省が音頭をとって数年前から事業を始めておりまして、実はある研究者の発表によりますと、実施率が全体の56%、504自治体が実施していると。それだけ無料の学習支援の取り組みが進んでおりまして、その内容についても、かなり今はどんなふうによればいいのかということで、バラエティに富んだ形で現状があるということでございまして。収支に即して言いますと、ちょっと古い資料ではございますが、3年前に子供の学習支援事業に関するアンケートということで地域の公民館などを利用して、「子供が学習面等で支援を受ける事業を行った場合に利用したいと思いませんか」としたところ、親御さんの反応ですが、76.1%のかなり高率で、「その事業があったら参加したい」と。実はこれは白井の調査なのですが、最近も実はまだ全体としては公表されていないのですが、小学校5年生と中学校2年生の本人と親御さんに同じようなアンケートをとっていまして、やはり数字の上ではこのように高い比

率でそういう事業があれば参加させたいと、できれば地元の近いところでそういう事業があればいいなという形がありました。

実現性・事業効果ですが、昨年度の実績はこんな形でした。特徴は学区外とといいますか、駅前センターからちょっと遠い大山口中学校の生徒が1人参加しているということでございまして、本年度は16日に開校式をやりまして、きょうから早速講習は始まるのですが、13名の参加が見込まれております。去年の大山口中学校のほかに、白井中、七次台中と、少し範囲が広いところから通ってくるということが実際には起こっています。ただ、往復の交通手段がいろいろ大変かなと思うのですが、そういう形で前よりも少し発展しているのかなというのが現状でございます。

3番目の自立性・自発性ですが、一番大きいのは自主財源ということでございまして、昨年度は10万円補助金をいただきましたが、それ以外に賛助会費と、この事業に賛同している方が一口1,000円で合計94口の賛同が得られました。その前の年は27口でした。ですから、そういう形でも少し広がってきているのかなと。市役所の中にも2枚ほどビラを張らせていただいております。

そういう中で問題は何かというと、今後の課題としてですが、場所の確保ということで、一つは、これも今年度から毎週火曜日優先的にとれるようになりましたけれども、金曜日は抽選です。外れた場合にはということで、やっかいな問題が起こるのですが、その問題が一つ。もう一つは、会場費の負担で年間9万円、決算のところにもあるように、会場費だけで、去年10万円もらったうちの9万円は会場費でなくなってしまうのです。ということで、会場費の問題。

もう一つは、講師陣がかなり私を含めて高齢なものですから、大学生に来てほしいと。大学生はただでは来てもらえませんので、交通費なり講師料なりをとということで、ことしの補助金の請求には、その分を加味させていただきました。それがことしの16万円の補助金を請求している大きな理由であります。

最後に、いずれ行政による事業が実施されることを念頭に、その地ならし、下準備、文字通りステップになることを期して我々の活動がございまして、本年度も補助金の申請をしているということでございますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。以上でございます。

[委員長] 時間ぴったりです。すばらしいです。ありがとうございました。そしたら去年と同じように、委員から質問させていただきますので、お答えいただければと思います。

皆さん、いかがでしょうか。

[委員] ○○です。昨年は、うちの学生がお世話になりました。ありがとうございました。

[発表者] こちらこそお世話になりました。

[委員] 卒論でお世話になりました。その際も活動を見させていただいて、しっかりさ

れているなというふうに思いました。

ステップさん、3年目ですか。

[発表者] 3年目です。

[委員] なられて、活動も広がっていらっしゃるということで、活動のところは本当に安定期に入ったというか、のところで、組織づくりというか、少し先を見通したところの持続可能性のところ、だんだん大きな課題になってくるかなというふうに思って伺っていました。

一つはお金なのですけれども、結局かかわることでお金の支出の最大のところが会場費ということで、賛助会費もたくさん集めていらっしゃるので、会場費さえなければ、ボランティアベースであれば、ずっと経済的にはやっていけるというところで、これは行政のほうと何かやり合っているとか、されていらっしゃるのですか。

[発表者] 今度の選挙には出ておりませんでしたけれども、今まで福井さんという方が会員でもありまして、市議会の議員でもございまして、その方を通じて市のほうにはいろいろご意見を申し上げたり、あるいはいろいろ反応いただいたりという窓口はございまして、そんな形でやりとりはしております。

[委員] この会場費だけでもなくなれば、本当にそこが無料で使える会場さえできればというふうに思いますので、ぜひまたご検討していただければと思います。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

私のほうから、活動に対してはあんまり言うことはないのですけれども、〇〇さんのお話にもあったとおり、この補助金制度自体は、皆さんの場合、あと1年は発展型でできるのですけれども、その後できないというルールになっているものですから、重複してしまうのですけれども、私もいろいろな助成金のほかの審査員とかもやらせていただいたことがあるのですけれども、本当に皆さんの活動は、全国レベルの「子どもゆめ基金」とか「子供の未来応援基金」とか、そういう全国レベルのそういう子供の貧困の基金、助成金でも十分合格というか、採択されるようなレベルになりつつあるんじゃないかなと思うので、次の財源、白井市の助成金も使っていただきたいのですけれども、そういった民間の助成金にもぜひチャレンジしていただければなというのと、あとは寄附も賛助会費が94口というのは、これは非常に素晴らしい実績で、皆さんの活動が素晴らしいから、わざわざ貴重な自分のお金を寄附してくださるということなので、こちらのほうを今後もまた、ことしも頑張ってお集めるという戦略をお持ちなのかなというふうにお聞きしたいのですが。

[発表者] 賛助会費については、私が地区社協に関係していたこともあって、地区社協の部屋にポスターを張らせていただいたりとか、そんな形で地元の池の上と南山、つまり南山中学校の学校区ということでやらせていただいているのですけれども、大体その子供が多いわけですから、そういう中で本当に前年度から比べると3倍以上の寄附が集まっています。うれしい限りなのですが、将来的には一つの方法は、行政が直接やっていると。この近

所でも鎌ヶ谷とか松戸とかいろいろやっているわけなので、そんなところも市の財政が厳しいという話も伺うわけですから、半分は国が出すという話もございましたので、ぜひその辺は市が積極的に参加というのですか、事業を展開していただければ、我々は応分にお手伝いできるのですがという、そういう方向が一つなのです。

あと、もう一つは、白井もいろいろ工業団地とかあって、そういうところに行って団体からもらってくるということもあるんじゃないかと。ただ私は、全然そういうところの知り合いは全然いませんので、何かそういったところでも私ども動く範囲を広めて、そういったところからも寄附をいただけるような形で広げていくというのも一つかなと、おっしゃるとおり、それは痛感しております。以上でございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。

[委員] 将来の展望のところで、補助終了後の展望のところで、居場所の機能も発揮できるといいなというふうに書かれているのですが、今年度はそんな取り組みをやる予定とかはございますか。

[発表者] 今までも参加する生徒の中で、学校には常日ごろから行っているわけじゃなくて、保健室登校とかそんな子もいて、そういう子も我々のところからは友達もいて来やすいとか、そういう子が若干ですが、いるのです。ただ、余りにも専門的なそういう教育をする知識を我々自身が身につけているわけじゃございませんので、そういった子供たちがいっぱい来ているのを我々是对応できないなと思うのですが、本年度の中にもそれに類するような子が若干は入って、何とか我々がやれる範囲でお手伝いしたいなというふうには思っております。

[委員長] よろしいですか。最後、1人ぐらい。

[委員] もう1回、済みません。やはり今後の課題のところなのですけれども、大学生の参加というところで、何かあて先というか、何か教えていただければ。

[発表者] 一昨年度は、私の知り合いも都心の大学の講師がいますので、そこで1,000枚、2,000枚ビラを配っていただいたのですが、応募者は1人もいませんでした。去年は、その彼もいろいろなことがあって、いなかったもので、ことしはまたお願いしたいかなというのの一つと、あと、できればぜひ地元の大学のほうでビラでも配らせていただければというふうには思うのですけれども、もしよろしかったらお願いしたいと思います。

[委員] 大学で結構ボランティアセンターとかを持っていたりとか、うちはそうでもないのですけれども、結構大学ぐるみで学生のボランティアを推進しているところなんかもあったりするのです。

[発表者] ぜひ、交通費ぐらいは出したいと思いますので、まるっきり持ち出しでは無理だと思いますので。

[委員] チラシいただければと思います。

[委員長] 時間となりましたので、どうもありがとうございました。

[発表者] よろしくお願ひします。

[事務局] 審査結果につきましては、4月の下旬から5月の上旬までの間に市民活動支援課より通知させていただきます。本日はこれにて終了になります。ありがとうございました。

以上をもちまして、平成31年度白井市市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーションを終了いたします。本日は皆様、どうもありがとうございました。

[委員長] お疲れさまでした。ありがとうございました。

(3) 補助金審査[非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第6号に基づき、補助金審査の内容のため。